

若手研究者海外派遣プログラム 派遣終了報告書

1 派遣者	
所属機関	国文学研究資料館
氏名	松田 訓典

2 派遣計画 概要	
派遣国	ドイツ
派遣期間	平成 29 年 10 月 2 日 ～ 平成 29 年 11 月 21 日
派遣先機関名	Universität Heidelberg
(英語)	Heidelberg University
受入教員名	Judit Árokay
(英語)	
研究課題名	文献観光資源学への古典籍画像の利用に向けて
(英語)	Towards the application of images of Pre-modern Japanese texts for the tourism resources studies based on literature

3 派遣による研究実績

(1) 調査研究実績 (研究計画に沿い、実施したことを記載してください。)

文献観光資源学の一環としてハイデルベルク大学アロカイ教授との共同研究で進められている“Digital Literary Maps デジタル文学地図” (<https://projects.zo.uni-heidelberg.de/node/literarymaps/>) の構築にあたって、国文学研究資料館古典籍共同研究事業センターで公開している「新日本古典籍総合データベース」 (<http://kotenseki.nijl.ac.jp/>) との一層の連携のための共同研究を行った。本研究は、今後「新日本古典籍総合データベース」に対して地理的な情報を付加し、検索機能の高度化ならびに古典籍ポータルとしての役割を強化していくための基盤として、その期待される機能を“Digital Literary Maps”上に試行していくことを意図したものである。

具体的な実施内容としては、アロカイ教授と同システムの構築を担当している大学院生レオ・ボルン氏とともに、まず、双方の既存システムのシステム構成・メタデータ・提供できるデータなどについての情報共有を行いつつ、今後実現できるデータについての検討を行った。同時に、「新日本古典籍総合データベース」との連携に関して書誌・画像連携の方式の検討を行い、書誌については当館で使用している書誌IDをキーとしたリンク、画像については当館で採用している国際的な画像相互利用フレームワークである IIIF による関連書誌のテキストなどの画像連携を行うこととし、その実現のために調整が必要なメタデータ項目の検討を行った。本システムで利用されているデータベースはドキュメント指向データベースの一種である MongoDB であり、またデータの内容上 TEI ガイドライン準拠の XML データとして準備することも検討したが、実際にデータ収集を担当するのがその扱いに不慣れな国文学研究者（大学院生含む）である点、入力補助のためのシステムの構築には十分な期間が必要な点に鑑み、当面 Excel データとして収集することとし、TEI ガイドライン採用については今後の課題とした。その際、同氏によって予定されていた“Digital Literary Maps”側のシステム再構築についても意見交換を行った。

一方で、同システムとの連携ならびに当館での公開に当たって、当館システム側で必要となる事項の検討、当館での公開方式の検討ならびに調整を進めた。

また、本プロジェクトならびに「新日本古典籍総合データベース」に関する発表の場を得、同大学東アジア図書館長ハンノ・レッヒャー氏らと本プロジェクトとアジア資料のデジタル化について意見交換を行うことができた。特にメタデータ、永続的なアクセスを保証するための DOI の付与、当館で試行している画像検索に関しては特に活発な意見交換を行うことができた。また、同図書館でも画像・フィルムなどのマルチメディアの収集を進めており、それらに対するアノテーション付与、DOI でのアクセスの考慮など、興味深い事例について理解を深めることができた。

(2) 基幹研究プロジェクトにおいてこの派遣が果たした役割

本研究は、機関研究プロジェクトの一翼を担う文献観光資源学の一環として、「新日本古典籍総合データベース」と連携して観光情報をはじめとした地理的情報を付与していくための基盤整備を行ったものである。今後この成果を活かしつつ、研究データの蓄積が進められることによって、文献観光資源の可視化を行うことができると思われると同時に、「新日本古典籍総合データベース」側での新たな機能追加の基盤となるものと考えている。

(3) 所属機関における学術分野に貢献する事項

本研究は、所属機関が推し進める「日本語の歴史的典籍の国際ネットワーク構築計画」において企図されている古典籍の利活用ならびにそれを踏まえた異分野共同研究の基盤として、「新日本古典籍総合データベース」と連携した形での“Digital Literary Maps”の再構築を進めるとともに、同データベースへの地理的な情報の付与を進めるための基盤となるものである。

(4) 研究成果（著書、論文及び報告書名・講演題目）

(発表)

Digitization of Pre-modern Japanese Works at NIJL

(2017.11.15 ハイデルベルク、アロカイ教授主催の研究会)

(5) 見込まれる研究成果（著書、論文及び報告書名・講演題目）

本研究で検討した「新日本古典籍総合データベース」との連携を加えた新たな“Literary Maps”については、当館内での準備が完了し次第、当館ウェブサイト上で公開する予定であり、その成果についても人文情報学系学会・研究会等にて発表したいと考えている。

また、今後この実現を踏まえて、「新日本古典籍総合データベース」上に地理的な情報を付加し、古典籍ポータルとしての役割の強化に資することが期待される。

(注意事項)

- ・本報告書は、帰国後1ヵ月以内に提出して下さい。
- ・この報告書を、本機構により刊行、Web掲載、広報冊子等として公表することがあります。この場合、内容に影響しない範囲で修正を行うことがあります。